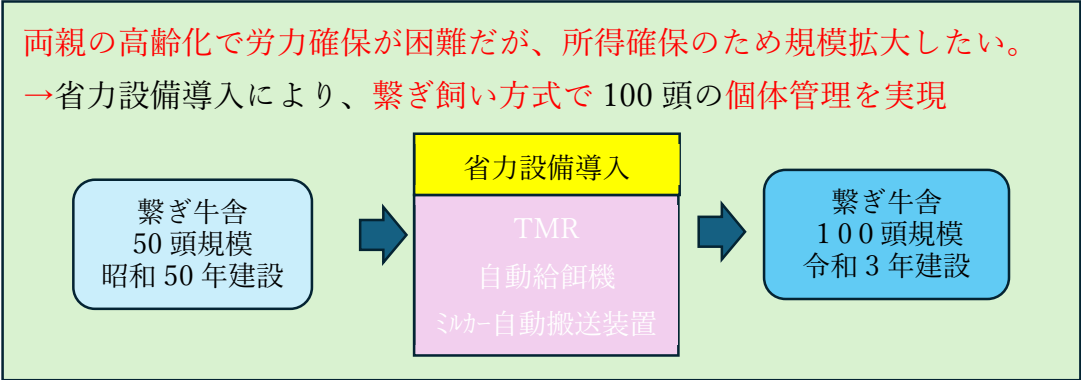


事例 1 「省力設備導入による繋ぎ 100 頭牛舎に規模拡大を実現」

草地林地総合整備型葛巻第二地区（平成 29～令和 3 年）

○事業を導入の背景



○事業の概要

- ・施設整備 牛舎 100 頭規模 1185 m² 木造 1 棟 繋ぎ、バンカーサイロ 277.83 m³
- ・設備機械 TMR ミキサー 23 m³（定置型）、自動給餌機 2 m³、ミルカー自動搬送機 6 台、バルククーラー、徐糞設備、牛床マット、トンネル換気システム等
- ・家畜排せつ物処理施設 固液分離機、貯留槽、ポンプ、攪拌機、堆肥舎等

事業費 280,803 千円 受益者負担 100,734 千円 経産牛 1 頭当たり負担額 1,007 千円



畜舎全景（前方）



畜舎全景（後方）



牛舎内の状況



ミルカー自動搬送機



TMR ミキサー（定置型）



自動給餌機

○事業実施効果

	事業前	事業後	対比	
経産牛頭数	43.6 頭	95.8 頭	(219.7)	増頭
年間出荷乳量	345.8 t	856.9 t	(247.8)	増加
経産牛当たり乳量	9155 kg	9589 kg	(104.7)	増加

ミルカー自動搬送機や自動給餌機の導入により省力化が実現し、両親の労力負担を増やすことなく増頭できました。増頭により生乳販売額が増加したことで所得が確保され、雇用労力も活用することが可能となり、定休日等の労働の環境も整えることができました。

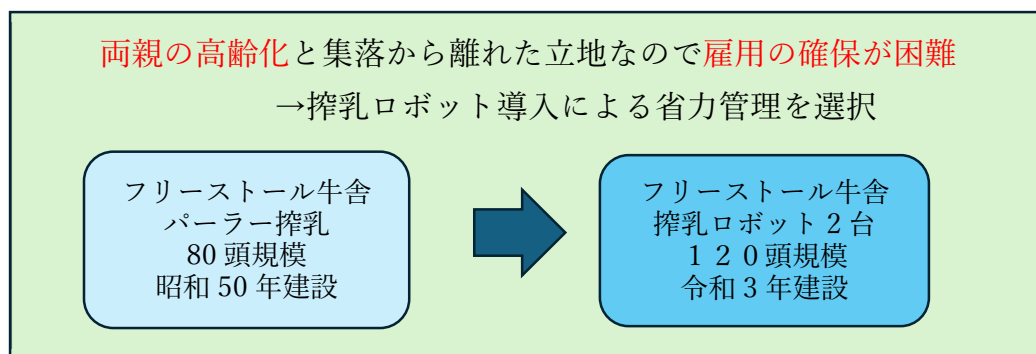
生産者の声

近年の飼料高騰と同時に増頭に取り組んだので、自給飼料の確保の重要性を再認識しました。今後も事業等を活用して、更なる飼料基盤の拡大に取り組んでいきます。

問い合わせ先：公益社団法人 岩手県農業公社 畜産振興課

事例 2 「搾乳ロボット導入による省力化と規模拡大を実現」 草地林地総合整備型葛巻第二地区（平成 29～令和 3 年）

○事業を導入の背景



○事業の概要

- ・施設整備 牛舎 120 頭規模 2260 m² 鉄骨 1 棟 フリーストール 120 床
- ・設備機械 搾乳ロボット 2 基、バルククーラー、徐糞設備、牛床通路マット
自動換気システム、餌寄せロボット、カウブラシ等
- ・家畜排せつ物処理施設 スラリートタンク 1975 m³、ポンプ、攪拌機

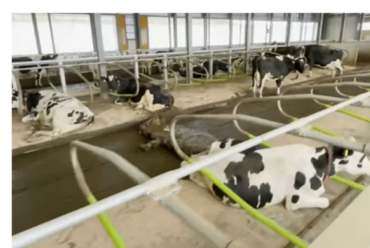
事業費 405,801 千円 受益者負担 162,038 千円 経産牛 1 頭当たり負担額 1,350 千円



全景



牛舎



ベットと通路をマット敷



搾乳ロボット 2 基



スラリーストア



餌寄ロボット

○事業実施効果

	事業前	事業後	対比	
経産牛頭数	100 頭	→ 120 頭	(120)	増頭
平均搾乳回数	2 回	→ 3.1 回	(155)	増加
経産牛 1 頭当たり 1 日乳量		35 kg/日・頭		

搾乳ロボット導入により、同じ労働力で両親の労力負担を軽減と増頭による出荷乳量増を同時に実現できました。また、搾乳ロボットからリアルタイムに提供される個体情報は、牛群管理支援において有効な情報となっています。

牛床マットや断熱自動換気システム等アニマルウェルフェアに配慮した畜舎で事故牛が減少しました。

生産者の声

草地畜産基盤整備事業は、手を挙げてから事業実施まで時間はかかりますが、様々なアドバイスをいただきながら十分計画を練ることができました。また、事業実施において関係機関の方々との関りができたことが良かったことでした。

問い合わせ先：公益社団法人 岩手県農業公社 畜産振興課